

植物成長調整剤の活用

樹木伐採作業の 低減・周期の延長 を目指します。



樹林の上部を通る電線

背景・目的

- 送電線や配電線では、成長した樹木の接触による電気故障を防ぐため、定期的に樹木の伐採を行っています。
- 近年、建設当時に植えた樹木が成長して送電線との距離が近くなったことや、温暖化で成長が早くなっている樹種もあることから、伐採対象が増加し、伐採作業の負担が大きくなっています。
- 植物の枝葉の成長を一定期間抑制する植物成長調整剤の「伐採対象樹木の伸長抑制効果」と、それに伴う「伐採周期の延長効果」を検証しています。

特長

- 植物成長調整剤は、細胞の成長を抑制することで植物の枝が短くなったり、葉が小さくなったりする薬剤です。小型化した植物は、緑色が濃くなったように見えますが、枯れることはありません。ただし、薬効が切れると再び成長を始めます。
- 特別な散布機材が不要で、ジョウロ等での作業が可能です。

用途

- 樹木伐採後の散布によって、枝の再伸長や切株からの萌芽(芽生え)を抑制
- 周辺雑草の成長も同時に抑えるため、作業時の足元安全確保や巡視路の管理低減にも寄与
- 工場や施設構内などの緑地管理において、植栽や雑草の草丈を低く抑えたい場合にも有効



薬量 2.0g/m²



薬量 0.8g/m²



無処理

薬剤処理して2年4か月後のニセアカシア苗木の樹高(ポット栽培)